

平成29年12月20日

平成29年

第12回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

平成 29 年 12 月 20 日（水曜日）午後 3 時から

1 出席委員（6名）

藤 崎 雄 三	委 員	委員長
横 川 敏 男	委 員	委員長職務代理者
鈴 木 清 子	委 員	
芳 賀 淳	委 員	
三 留 利 夫	委 員	
津 村 正 純	委 員	教育長

2 出席職員（9名）

教育総務部長	水 井 靖
教育総務課長	森 岡 剛
副参事（教育政策担当）	北 村 操
学務課長	杉 山 良 樹
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	増 田 亮
副参事	田 井 俊 行
学校職員担当課長	鈴 木 清 貴
教育センター所長	柿 本 伸 二
大田図書館長	山 中 秀 一

3 日程

日程第 1 特別報告

~~~~~  
(午後 3 時開会)

#### ○委員長

ただいまから、平成29年第12回大田区教育委員会定例会を開会いたします。

12月11日をもって、尾形委員の任期が満了になったことに伴い、12月12日付けで、新たに三留委員が区長から任命を受けたのでご紹介いたします。

三留委員は、大田区立入新井第五小学校、山王小学校、田園調布小学校、東六郷小学校で校長を務められ、大田区教育委員会教育アドバイザーとして、12月11日までご勤務していただいております。

三留委員から、一言ご挨拶をお願いいたします。

#### ○三留委員

失礼いたします。ただいまご紹介いただきました三留と申します。尾形威委員の後任ということで、尾形委員が大変尽くされたということは、よくわかっております。大変責任の重さを痛感しております。

今ご紹介いただいたように、私は大田区の学校の担任、教頭、校長と長く務めておりま

した。全部の地区も経験をいたしました。大田区の教育のため、また、子どもたちのために尽くしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長

三留委員、よろしくお願いいたします。

委員の皆さんの席次については、これでよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○委員長

はい、わかりました。

本日は傍聴希望者がおります。

委員の皆様は傍聴許可を求めます。許可してもよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○委員長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○委員長

傍聴の方にはお願いいたします。

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力よろしくお願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしていますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に鈴木委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第1は、「特別報告」でございます。

本日は、指導課長より報告がございます。

○委員長

それでは、指導課長より報告をお願いいたします。

○指導課長

それでは、本日は、教育研究推進校の実践とおおた教育振興プラン2014ということで、

私から報告をさせていただきます。

学校への研究指定は、国の指定があったり、都教委の指定があったりと様々でございますが、大田区においても、人権教育研究協力校、特色のある学校づくり推進校、今年度からは家庭学習研究推進校も加えておりますが、大田区としてずっと研究実践を積み重ねているのが、この教育研究推進校でございます。

プラン2014に基づいて教育施策を進めさせていただいているわけですが、その進捗状況と教育研究推進校の実践をあわせて、今日のご報告をさせていただきたいと思っております。

今年度、教育研究振興プラン2014の、ちょうど、5年計画の4年次を迎えているというところでございます。

アクションプラン、6つあるうち、学力向上、豊かな心、体力向上、教育環境向上という、特に私が担当させていただいております、指導課に関わる部分を中心にお話をいたします。

成果指標というのを設け、最終年度の来年度末までに、ここまで持って行きましょうという成果指標を設定して、各アクションプランがあるわけですが、今申し上げたように、この4つについて、研究校との関わりで報告します。

まず初めに、松仙小学校でございます。実際はいろいろなプランに関わっているのですが、ここでは学力向上アクションプランに位置付けて報告します。

プリントとこのプレゼンについては、成果と課題についてのみ触れています。私からは口頭で実践の概要について簡単に触れさせていただきます。

「「楽しい」学校の創造～生活・総合的な学習の時間の「楽しい」授業の創造～」と、主題、副主題に「楽しい」という言葉が二つ入っている、この短い言葉に二つ入っているということぐらい、楽しく授業をやっているというのが、この松仙小学校の実践でございました。

当日の公開授業では、生活科で秋の遊びや、まち探検、総合的な学習の時間でまちづくり、福祉、食、防災をとりあげていました。総合は、ご存じのとおり、各学校が特色をもった教育課程を組めることができますので、ある意味、総合らしい総合を追究していただいた発表となりました。

特に、当日私が、そうか、すごいなと思ったのが、発表方法です。まず、グループごとに、先生が直接参会者に語りかけるというような形をとってございました。板書、自分事、見通しと振り返り、発問、まとめ、課題のつくり方、思いや願い、関わり、教師の見通しと、それぞれがテーマ別にポスターセッションをするという研究発表で、その後はシンポジウムという形の研究発表でございました。

同じく学力向上アクションプランにかかわって、出雲小学校の実践を報告します。研究主題「保護者・地域と連携した生活・学習習慣の改善と教員の授業力向上」と、この研究主題のもと、学力向上のために、保護者・地域と連携して、子どもたちの生活習慣や学習習慣を改善しようと研究に取り組みました。さらに、教員の授業力もプラスしていこうということで、本当にあらゆる時間やあらゆる空間を使って、子どもたちに学力向上を働きかけたという研究でございます。

「すき間学習」という言葉をこの学校では使っておりましたが、例えば、早く登

校してきた子どもですが、多くの学校では、8時半以降の朝自習の時間に本を読みます。出雲小では、どうしても早く来てしまう子どもたちへは、廊下で心静かに本を読ませるといふ「すき間学習」をさせていました。当日、校内を回りますと、階段一段一段にかけ算九九が貼ってあったり、または、隣の階段に行きますと、今度は都道府県の特産物が貼ってあったりと、本当にあらゆる時間・空間を使って学力向上に取り組んだということでございます。教室の上を見ると、東西南北と、あと八方位が全部貼ってありまして、この教室のこちら側が南だな、北だなということもわかるようになっていました。

同じく学力向上アクションプランとして、赤松小学校を紹介します。研究主題「学びを創る～ESDの充実を通して～」ということでございます。ESD、持続可能な開発のための教育は、ユネスコを含めて取り組んでいるところなのですが、学びのスタイルという形で、多様性、相互性、有限性、公平性、連携性、責任性と、6つの価値観で授業のカリキュラムを構成して学びのスタイルをつくりました。

公開授業ではどのクラスも、つかむ、見通す、挑む、挑むという言葉は、あまり教育課程で使ったことが少ないのですが、この学校はあえて使っていました。挑む、深める、まとめる、振り返る、こういうサイクルの中で子どもたちの学力向上、ESDの意識を高めていこうというものでございました。

また、ちょうど研究発表の数日前に、ESD大賞の小学校賞を受賞するという、大変嬉しいニュースも飛び込んできた研究発表でございました。

大森第五小学校、これは2月2日の午後発表ということでございますので、今ちょうど、成果と課題をまとめている真っ最中ということでございますが、例としてお話ししたいのが、ブルートライアングルプロジェクトといたしまして、アオスジアゲハを育てております。恐らく当日、それも触れた成果が上げられるのかなと期待しています。

今年度、様々な学力向上施策をさせていただいているところでございますが、おた教育振興プラン2014ではどうだったかというところを検証、確かめてみます。

まず、学力向上アクションプランでは、大田区学習効果測定、中3数学、期待正答率を超えた生徒の割合を成果指標にして、平成30年度の目標値を62%に持って行こう、つまり、計画をつくった25年度に全国平均が61.8%だったので、それよりも若干上を目指そうということで、当時は60.6%からスタートしております。昨年度まではこのような進捗状況で、昨年度クリアすることができました。今年度でございますが、さらにその幅を増やすことができたということになります。年々研究発表というのをしているわけですが、その研究発表の成果をそれぞれの学校に生かして、授業改善につなげていたことも、この数字の一つの支えになったと考えておりますので、ご紹介をさせていただきました。

次は、豊かな心の育成アクションプランです。糶谷中学校の研究発表を紹介いたします。研究主題「『こころ豊かな』生徒の育成～体験的な活動を通して自己肯定感や進んで社会に貢献する心や態度を養う～」ということの研究に取り組んでいただきました。私が中でも注目したのが、学習満足度、学校生活意欲をはかる調査を実施して、集団としてのクラスはどういう集団なのかということを検証しながら、クラスの状態にその子は満足しているのか、または不満を持っているのか、悩んでいる子はいないのかを把握していることです。先生が子どもたち一人一人の立ち位置を確認しながら声をかける、指導をすると、自己肯定感を高める取り組みを積極的にしていただいたということでございます。

その成果が、先ほどの全国学力学習状況調査の質問紙、「自分にはよいところがあると思いますか」の設問で、あると思うと答えた回答が83%。これは中学校の数値としては、これは相当高い数字を上げることができています。昨年度、一昨年度と比較しても、はるかに上回る数字でした。やはり教師がクラスの状況、全体傾向を確認し、一人一人の状況を把握しながら授業をする、声かけをする、サポートをするということが大事なのだな、豊かな心の育成にもつながっていくのだなということがわかりました。

プラン2014の成果指標「自分にはよいところがある」と答えた小6児童の割合、計画立案時は73.2%でした。昨年度まで、このように、着実に一段一段階段を上るようにスモールステップで数値をあげてきました。今年度でございますが、76.1%ということで、こちら目標を達成することができました。

次に、体力向上アクションプランにかかわって、徳持小学校を紹介します。「する子 みる子 支える子 知る子の育成～体育科「体づくり運動」、オリンピック・パラリンピック教育を通して～」ということで研究を進めていただきました。スポーツへの関わり方は、するスポーツ、観るスポーツ、支えるスポーツと、三点が世間ではよく話題になるのですけれども、徳持小はそこに、知るスポーツを加え、健康というのはどういうことなのか、体づくりというのはどういうことなのかということ「知る」という視点を加えて研究に取り組みました。

さらに、キーワードの一つにシェアという言葉を使っておりまして、つまり、する子、みる子、支える子、知る子が、それぞれの立場でシェアをする、交流をする、関わり合う、話し合う、伝え合うといった活動をする中で、それぞれの子どもを育成していこうという研究発表でございました。

体育の授業では、体づくり運動、さらにはオリンピック・パラリンピックに取り組んでいただきました。

もう1校、体力向上に取り組んだのが、糀谷小学校でございます。研究主題は「運動の楽しさや喜びを味わい 学びを実感できる体育学習」です。

低学年と中学年は基本的な動き、基本の運動に幅広く取り組んで、楽しさと喜びを味わわせ、高学年は、全ての運動領域に取り組み、特性や魅力に触れる楽しさを味わわせていました。高学年になってくると、それぞれ得意、不得意が見えてくるので、得意なところをしっかりと伸ばしていこうとしています。低・中と高と若干視点を変えて、生涯にわたって運動に取り組む人間を育てる研究でした。

研究発表当日は、体育の公開授業が4時間目、5時間目にあつたのですけれども、私になるほどなと思ったのは、昼休み、中休みの運動の活動でございました。ロケット投げといいまして、ボードにひもみたいなものがぶら下がってしまっていて、そこに物を投げるとしゅーっ行ってはまた戻ってくるものでした。このような投げる活動がなかなかできない、また、ボール遊びをする場所が見つからないという状況があります。しかし、糀谷小ではロケットがあちこち行かないラインをつくっておいて、そこに投げて、また戻ってきたものを投げるといった取り組みをしていました。また、宝とり鬼キックターゲットなど、とにかく体を動かすことを休み時間にやらせていたというのが、私の印象に残りました。

さらには、子どもだけではなくて、先生がとても楽しそうにやっているというのも、私

の印象の中に残っておりまして、やはり最大の教育環境は先生だなということ、改めて感じた研究発表でございました。

そこで、プラン2014の体力向上アクションプランの指標として、新体力テストの小6男女児童の体力合計点を設定しております。計画立案時は、男子が60.21点、女子が60.15点ということで、計画策定時の全国平均値まで行こうということだったのですけれども、当時は、ちょっとハードルが高すぎるのではないのかなという議論があったという話も漏れ聞いております。しかしながら、昨年度までの4年間、若干下がっている年もありますけれども、ほぼほぼ進んできたかなという中で今年度でございます。女子61.63点ということで、ほんのちょっとですけれども、女子については61.59点の目標を達成することができました。

糀谷小や徳持小の研究実践が、さらに大田区全部の学校に広がり、休み時間にも運動をするという子どもたちがさらに大田区に広がっていけば、これは男子も女子も目標を達成する可能性もあるのではないかなと期待をしているところでございます。

次に、教育環境向上アクションプランに位置付けさせていただいたのが、池上第二小学校の研究発表でございます。

「伝えよう 受けとめよう 対話で高まる読みの力～学校図書館利活用・ICT機器活用もしながら～」ということでございまして、基本的には国語、読書活動の研究発表でございました。ただ、この場では、ICT機器の利活用を中心にお話をしたいと思います。

文部科学省によれば、今年度は、新学習指導要領の周知・徹底の期間ということで位置付けてございまして、授業改善の視点の一つが、主体的・対話的で深い学び、いわゆるアクティブラーニングを、全ての学校でやっていきたいと思いますということを文部科学省が言っている中で、このICT機器というのは、そこに大きくプラスになるツールになる可能性があるなと思ったのが池上第二小学校の研究発表です。

教室でやった全ての授業で、スライドレール式電子黒板を使っておりました。このスライドは、池上第二小学校の研究発表の様子です。まだ整備途中だったので、書画カメラとスライドレール式電子黒板、この二つしかできていなかったときなのですけれども、それでも、紙を置いたり、子どもの作品を置いたりしながら、大きく映して発表をし合っていたという授業もございました。

こちらは、子どもの発表の様子です。ビブリオバトルというのですけれども、おすすめの本の紹介をしているのを、本を映しながら子どもが発表しています。本が大きく映る、手元に映る、物を見せるということもとても大事だと思うのですけれども、物を見せながら、大きく映しながら発表できたというよさがございました。デジタル教科書を使っている授業では、書き込みなどもしておりました。

デジタル教科書並びにICTにより使うことに夢中になってしまっていて、どうしてもこれまでやっていた板書とかノートに書かせるといった、昔からやっている、これまで培ってきたよき学校での指導がおろそかになってしまうのではないかなという心配で各校を回らせていただいているのですけれども、少なくとも池上第二小学校は、板書をおろそかにしていない、これまで培ってきたよき指導をおろそかにしていないところも、大変重要なところではないかなと思いました。

このように、今まで使っていた板書やノートに加えて、デジタル教科書などと併用しな

がら、スライドレールを行ったり来たりさせながら、授業をしていた池二小の発表も、とてもよかったですと思いました。

そこで、先日、雪谷、大森、蒲田の3税務署が主催する、中学生の税についての作文の表彰というのがあったのですが、その作文集の中の、馬込中の3年男子生徒の作文が掲載されておりましたので、一部読ませていただきます。「私たちの身の回りでも、税金によって導入されたものがある。それは、各教室に配備されたスライドレール式電子黒板だ。この配備により、授業間の教室移動頻度は減り、予鈴前着席のできる生徒の増加や落ちついた態度で授業を迎える等の多くの利点があった」と子ども自身が作文に書いていただいております。ありがたいなと思っております。落ちついた授業づくりの一端にも、ICT機器が活用できているのかなと思えます。

そこで、プラン2014、教育環境向上の進捗状況でございますが、若干でこぼこというのはあるのですけれども、今年度、これはまだ2学期が終わっていませんので、1学期の数値をまとめたところ、99%と、100人アンケートをいただいたら1人、ちょっとマイナス表現のアンケート結果があったという状況でした。年度終わりには、少なくとも安定した80%以上という指標は、これはもう間違いなく達成できるという状況でございます。ただ、アンケートを出していただいている方というのは、基本的に好意的に学校を見ている人が多いのではないかなとも考えられますので、回収率とか、あと、A、B、C、DのA、B合わせて肯定的な評価という見方だけではなく、例えばA評価だけではどうなのかという、さらなる分析も必要かなと思っております。

様々な研究発表を通して、プラン2014の実現に向けて取り組んできたわけですが、大田区の全ての教室の前面には、こちらの「おおたの子どもポスター」が掲示されております。改めてこれを見ますと、平成24年、プラン2014がつくられる2年前にやったものなのですが、「教師は、分かるまで教えます。教材を工夫し、意欲を引き出します。児童がたがいに伝え合い、学び合う場をつくります。児童の成長を認め、はげまします」と、教師が取り組むべきことをしっかりやっていくのだと宣言しているものです。改めて、ここに立ち返って教師としての在り方を考える必要があると思ひ、この場でご紹介をさせていただきました。

いずれにしても、教育研究推進校の実践を各学校にさらに広めていきたいと考えております。

今回は、プラン2014の成果指標を中心に紹介をさせていただきましたので、何か全てがうまくいっているように感じてしまうのですけれども、成果指標に示されている部分というのは、たくさんある教育活動の中の、ごくごく一部です。様々な教育課題は山積しております。今日はあえて触れませんが、そういう課題を一つ一つクリアをして、ハードルを越えていって、おおたっ子、意欲あふれる学びの輪をつくってまいりたいと考えています。

以上で報告を終わります。ありがとうございました。

## ○委員長

指導課長、ありがとうございました。

ただいまの報告についてのご質問、ないしはご意見ございましたら、いかがでしょうか



か。

## ○芳賀委員

一つはICTのお話がありました。電子黒板とかそういうものなのですが、学校公開に伺うと、最初のころは余り見ることがなかったのが、だんだんだんだん遭遇する機会が増えてきて、実際に使われているケースも増えてきました。今ご説明があったように、それが活用されているのはとてもいいことだと思います。あと、学校公開日のときがそういうことが多いのかもしれないのですが、よく先生方が黒板の板書の時間を省略するために、模造紙にきれいに字を書いて、前の晩とか前の前の晩ぐらいから一生懸命用意して貼られるのを拝見したりして、わぁ、こんなにきれいな字を書くのは、随分お時間をとったろうといつも見ておるのです。例えば、そういうところをICTで画面に映し出すということをするれば、かなりの時間が省略できて、もっと効率よく、ご準備ができるようになるのではないのかなと。とにかく先生の時間を、何に集中的に投資するかって非常に大事なことなので、効率よく準備できるのにも役に立つのではないかと、そのように非常に期待しております。それが一つです。

あともう一つ、研究発表会に、私もできるだけ参加させていただこうと思っております。多分これ、この学校だけがよくなるために研究発表をしているのではなく、発表することによって、区内、あるいは、場合によっては全国からいろいろな先生が集まって、それをまた自分の学校に持って帰るということが大事なのだらうと思っておるのです。授業はみんないいのですよ、とても。私たちも見て、この授業とてもいいなというような研究発表をされています。準備した授業はとてもいいのですが、いいものを見た後というのは、やはりみんなと語り合いたいのではないのかなと、それをテーマにと思うのですが、先生方が最初に授業にまず参加した後、講演をずっと聞いているというパターンの構成が多いです。別に、それで先生方が満足していらっしゃるなら、私みたいな部外者が口を挟まない方がいいのかもしれませんが、必ずしもそうではないような気もするものです。その後の発表会の構成に、いろいろな工夫があり得るのではないかなと思っていましたら、先ほどお話もあった松仙小学校は、ポスターセッションや何かで随分工夫されていましたし、ほかにもパネルディスカッション方式にしたりとか、いろいろ工夫があるのです。せっかく来ても、みんなで語り合う機会もなしに黙って聞いて帰ってしまうだけでは、もったいない気がするので、そういう工夫とかが進んでいらっしゃるのだなと思いました。ぜひそういうのは進めていただきたいというのが感想でした。

以上です。

## ○委員長

ほかに、ご意見、ご質問はいかがですか。

では、僕のほうからも、二つ申し上げます。

今、芳賀委員がおっしゃった点に関してですが、発表の工夫は、相当されてきたと強く感じております。発表する先生により濃淡はありますが、どうやってお届けしたほうが持ち帰りが多いだろうかという観点から、以前と比べると、数段工夫の跡が見えています、というのが一点。

もう一点は質問です。発表のレベルは上がったとして、本来の目的である、どうやってその内容を各校で広げていくかという点です。例えば、発表後、ほかの学校からその学校への問い合わせを推奨するですとか、教育委員会のほうで、広げるための施策や工夫がなされているのかを、教えていただければと思います。

### ○指導課長

終わった後のお問い合わせ、基本的にはアンケートがたくさん各学校に集まりますので、そのアンケートを読んで新たな指摘や課題に気がつくという学校もあります。それに対して個別に返事をしているという取り組みをやっていると思います。

研究発表だけで終わらずに、一堂に会すことも大切だと考えております。2月のおおたの教育研究発表会では、それぞれ今年度発表していただいた学校を一堂に会して、全体会で全体的なお話をしていただいた後、学力向上など先ほどのようなグループ分けをして、区民、保護者の方も含めてお伝えする場を設けさせていただき、実践を広げてまいります。

### ○委員長

ありがとうございます。

数字を見せていただいて、年々、上下はあるものの、前に進んでいることはよくわかりました。数字を置く、つまり目標があることによって、頑張り度合いというのが自分たちで計れるので、数字を置く大切さを再確認しました。ただし、それを実現するかは、ちょっと言葉は悪いですけど、先生方、あなたたちが自ら考えるのですよというメッセージが重要だと思います。今、それに向かって前進していることは、報告を聞き、よく分かりましたので、数字の力強さというのを、非常に感じさせていただきました。あわせて感想の意味でお伝えしたいと思います。ありがとうございました。

ほかに、何かご意見、ご質問等ございますか。

### ○三留委員

学習指導要領完全実施が平成32年度でございます。今、移行期間ということなのですが、今の発表を聞かせていただきまして、大変それにつながる要素のものがいっぱいあるなということを感じました。来年からは移行ということで、道徳はもう実施されるわけですけれども、そういう中で、各学校工夫して発表されているなということを感じました。

松仙小学校の「楽しく」というのは、まさしく主体的学習につながります。そういうキーワードがいっぱい出てきています。出雲小学校の「学習習慣」については、今度の学習指導要領の総則に示されていますけれど、それにつながる研究だと思います。赤松小学校の研究については、今よく言われている「持続可能な」というところで、多様な視点から「カリキュラムマネジメント」に取り組み、各学校に大変参考になる実践だったのではないかと考えています。大五小の実践については、地域に根差すということで、地域に根差しながら教育をつくっていくと。これも、各学校の教育課程をつくっていく上で、参考になるというふうに思いました。

そのほか、糺谷中の自己肯定感、それから徳持小学校の協働的な学び、糺谷小学校の運

動の楽しさや喜び。こういったものについては、新しい学習指導要領に盛り込まれている内容で、先進的な取り組みといえます。

それから、ICT活用につきましては、私も教育アドバイザーとして各学校を回っていた経験がありますけれども、大変大きな予算をかけてやっているということもあり、各学校で意識して活用はなされていると思っています。今後、より効果的な活用を目指してほしいと思います。

全体的に校内研究については、各校工夫してやっているという印象があります。

ただ、これから校内研究をやっていくにあたって、校内研修という要素もありますので、教師の力をどうつけるのかという視点も必要です。それから、目指す子ども像をしっかりと設定しながら、それに向かってどうしていくかという具体的な手だてを示しながら研究を進めていくということが、これから必要なのかなというふうに感じております。

### ○委員長

ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「なし」との声あり)

### ○委員長

指導課長、どうもありがとうございました。

これもちまして、平成29年第12回教育委員会定例会を閉会します。どうもありがとうございました。

(午後3時32分閉会)